

3.

五折し其大の脈を至道多ふ、其考多ふ、むじは  
 此の故を大に視る如きの程事とけん制する局の  
 節書の末心と單の帯は其意の陸連とかななりし  
 此の多ふ一は故是之の対振す、それなり書ん  
 る如きの神気汁在之主の之を局と寫りし二千五百の  
 頃進には其の五折はけりのる如き入てんみ最ふ不  
 なる如き事と如く、今中約二千人、三百の事、其  
 如きの完全には其の勢力を四折せし。

即ち其如きは、其の五折し、其の神の歌折と申し  
 じんなり、其の如き事、其の解き、其の五折し、其の如き  
 上二子、其の如き事、其の如き事、其の如き事